

健診結果の見方（標準項目のみ）

身体計測	身長/体重/BMI	身長や体重を計測することで、肥満度を表す指標として用いられるBMI(身長に見合った体重かどうかを判定する数値)を調べます。体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で算出します。
視力		0.9未満の場合は要注意です。
聴力		低音および高音が聞こえるかを調べます。
血圧		心臓が血液を送り出す時に血管に加わる圧力を測ります。高血圧は動脈硬化を引き起こし、悪化させるため注意が必要です。
呼吸機能	%肺活量	性別、年齢、身長から算出された予測肺活量に対する数値です。79%以下では肺のふくらみが悪いことを意味します。
	1秒率	最大に息を吸い込んでから一気に吐き出すとき、最初の1秒間に何%の息を吐きだせるかを調べます。
血液	脂質系	HDLコレステロール 善玉コレステロールと呼ばれ、血液中の悪玉コレステロールを回収します。少ないと動脈硬化の危険性が高くなります。
		Non-HDLコレステロール すべての動脈硬化を引き起こすコレステロールを表し、動脈硬化のリスクを総合的に管理できる指標です。
		LDLコレステロール 悪玉コレステロールと呼ばれ、多すぎると血管壁に蓄積して動脈硬化を進行させ、心筋梗塞や脳梗塞を起こす危険性を高めます。
	糖代謝系	中性脂肪(TG) 糖質がエネルギーとして脂肪に変化したもので、数値が高いと動脈硬化を進行させ、低いと別の病気が疑われます。食事内容や食後時間に影響されやすい項目です。
		血糖 ブドウ糖がエネルギー源として適切に利用されているかがわかり、数値が高い場合は糖尿病やその他の病気が疑われます。
		尿糖 糖尿病やその他の要因で血糖値が上昇すると、尿にも糖が漏れ出てきます。
	尿酸(UA)	HbA1c(NGSP) 過去1、2ヶ月の血糖の平均的な状態を反映します。当日の食事や運動など短期間の血糖値の影響を受けません。
		尿酸の産生・排泄のバランスがとれているかを調べます。高い状態が続くと、痛風発作や尿路結石の原因になります。
	肝臓系	AST(GOT) 心臓、筋肉、肝臓に多く存在する酵素で、数値が高い場合は病気が疑われます。
		ALT(GPT) 肝臓に多く存在する酵素で、数値が高い場合は病気が疑われます。
		γ-GT(γ-GTP) 肝臓や胆道に異常があると血液中の数値が上昇します。
		総蛋白 血液中の総たんぱくの量を表し、低い場合も高い場合もそれぞれ病気が疑われます。
	感染症系	アルブミン アルブミンは肝臓で合成され、肝臓障害、栄養不足、ネフローゼ症候群などで減少します。
		HBs抗原 陽性の場合、現在B型肝炎ウイルスに感染していると考えられます。
		HCV抗体 陽性の場合、現在C型肝炎ウイルスに感染している可能性が高いと判定します。
	腎臓系	CRP 血液中に増加する急性反応物質の1つで、細菌・ウイルス感染、炎症を調べます。
		クレアチニン(Cr) アミノ酸の一種であるクレアチンが代謝されたあとの老廃物で、数値が高いと腎臓の機能が低下していることを意味します。
	血球系	eGFR クレアチニン値を性別・年齢で補正して算出し、数値が低いと腎臓機能の低下を意味します。
		白血球(WBC) 細菌などから体を守る働きをし、低い場合も高い場合もそれぞれ病気が疑われます。
		赤血球(RBC) 赤血球の数が多すぎれば多血症、少なすぎれば貧血など、それぞれ病気が疑われます。
		血色素量(Hb) 酸素の運搬役を果たし、数値が低い場合は貧血が考えられます。数値が高い場合は多血症や脱水症が疑われます。
		ヘマトクリット(Ht) 血液全体に占める赤血球の割合で、低い場合も高い場合もそれぞれ病気が疑われます。
		MCV MCVは赤血球の体積を表します。低い場合も高い場合もそれぞれ病気が疑われます。
		MCH 赤血球に含まれる血色素量を表します。
便	便潜血	便に血が混ざっているかを調べます。陽性(+)の場合は各病気が考えられるので、区別するためには検査が必要です。
	蛋白	腎臓の機能が低下すると尿蛋白が増えます。
	潜血	尿に赤血球が混入していないかを確認します。

心電図		心臓の筋肉に流れる電流を体表面から記録する検査で、電流の流れ具合によって、心臓の異常がないかがわかります。	
胸部 X 線		肺や気管、心臓、大動脈などの異常がないかを調べます。	
上部消化管	X 線	胃および食道・十二指腸の一部を映し出し、臓器の形の変化や異常を調べます。	
	内視鏡	口から内視鏡を挿入して観察し、がんなどの病気の発見に有用です。	
腹部超音波		肝臓、膵臓、腎臓、胆のう、脾臓の大きさや腫瘍(できもの)等を調べます。	
子宮頸部細胞診	細胞診検査により子宮頸がんの早期発見につながり、また膣炎などの感染がわかります。		
	運用	判定	推定病変
	異常なし	NILM	非腫瘍性所見、炎症
	要精密検査 (HPV検査による判定が望ましい)	ASC-US	軽度扁平上皮内病変疑い
	要精密検査 (コルポ、生検)	ASC-H	高度扁平上皮内病変疑い
		LSIL	HPV感染、軽度異形成あるいはCIN1
		HSIL	中等度異形成、高度異形成、 上皮内癌あるいはCIN2,3
		SCC	扁平上皮癌
	要精密検査 (コルポ、生検) (頸管、内膜細胞診、組織診)	AGC	腺異型または、腺癌疑い
		AIS	上皮内腺癌
		Adenocarcinoma	腺癌
要精密検査 (病変検索)	Other malig.	その他の悪性腫瘍	
乳房		X線撮影によるマンモグラフィ検査、もしくは乳腺超音波検査にて、乳房の異常がないかを調べます。	
内科診察		視診、触診、聴打診などにより、各種検査では判断しにくい身体の異常を調べます。	
眼底		瞳孔の奥にある眼底を眼底カメラで撮影し、血管、網膜、視神経等に着目し、それが正常か否かを確認します。	
眼圧		眼内液(房水)の圧力を調べます。低い場合は網膜剥離や外傷など、高い場合は緑内障などが疑われます。	

定期的に健康診断を受けましょう

自覚症状が現れにくい病気は少なくありません。だからこそ定期的な健診で健康状態をしっかりとチェック。自分の体をしっかりと知るのが健康維持の第一歩です。

